文字に対する敏感

久保田万太郎

青空文庫

此頃の発句を作る人ほど、文字に対して敏感を欠いてゐるものも少なからう。

文字に対する敏感――

こゝに一つの句があるとする。

その句の存在は、耳に聞く前に、まづそれが眼に訴へられるものである事を考へなければならない。

その眼にうつたへられる場合、その文字を選ばない事によつて、其の句の持つてゐるものを――感じをハッキリ伝へることの出来ないことが屢々ある。

趣向がよくつてもそれはいゝ句とはいへない。

調子がよくつてもそれはいゝ句とはいへない。

出来上つた一句の、それを纏めてゐる文字が、読む人の眼にどんな感じをあたへるか、果してその句の持つてゐるものをハッキリ伝へてゐるか、そこまで考へなければ本当ではない。

たとへば、此頃の人々がよく使ふ「陽」と云ふ文字である。

誰が使ひはじめたのかは知らない。云ふところの新らしい人たちのうちの誰かゞ、今迄使はれて来た「日」と云ふ文字では、はつきり心もちを現はせないと考へたとき、余儀なくそれは使はれたものであらう。

だが、一度それが人々の眼にふれると、いかにも新らしい発見でゞもあるやうに、我も〳〵と猫も杓子も「陽」と云ふ字を使ふ。内容にふさはうが、ふさふまいが、そんな事は一向考へずに使ふ。

いふならば、私は、其の最初に「陽」の字を使つた人の心もちさへ疑はれる。

古くから発句といふものゝ季題に用ひられてゐる文字、すべて調子の低い色の薄い、ある陰影を持つた文字ばかり常に並べられる間にあつて、そこに使はれた「陽」と云ふ文字が、どの位あくどく、強く、さうして濁つて居るか分らない。

――蓋し穿きちがひである。

これを翻訳に例をとる。

それは恰も彼の、メエテルリンクの「家の内」を、「内部」と訳し、エデキントの「春の目覚め」を「春期発動」と訳し、いゝと思つてゐる手合である。

発句を作る人は誰も発句と云ふものゝ、持つてゐる本質、味はひ、さうした事を、つねに深く考へないではいけない。

もし此の説に首肯出来ないものがあるならば、私はたやすく、その人を文字に対する敏感を欠いてゐるものと断定すると同時に、発句を作るほんたうの資格のないものと断定することが出来る。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆　別巻88　文字」作品社
　　1998（平成10）年6月25日第1刷発行
底本の親本：「久保田万太郎全集　第一四巻」中央公論社
　　1967（昭和42）年6月
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2014年1月2日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

文字に対する敏感

久保田万太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/